

食の安全安心セミナー（仙台会場）アンケート結果

□セミナー参加者：111名，回答者：93名

①性別 男性：47名 女性：46名

②年齢 ～19歳：0名 20歳代：9名 30歳代：7名 40歳代：16名
50歳代：27名 60歳代：16名 70歳代～：17名（※無回答：1名）

③職業 消費者（団体含む）：34名 食品関連事業者：6名 生産者（団体含む）：5名
行政関係者（独法含む）：36名 報道関係者：0名 その他：12名

④ セミナー開催の把握方法

1) ホームページ

宮城県：12名 消費者庁：2名 食品安全委員会：2名 厚生労働省：1名 農林水産省：3名
詳細無回答：3名

2) メールマガジン

食品安全委員会：5名 農林水産省：0名 その他：0名

3) 宮城県からの情報

ダイレクトメール：18名 新聞：7名 ラジオ：1名 フェイスブック：0名 その他：3名
詳細無回答：3名

4) 所属団体からの連絡：28名

5) 知人からの紹介：1名

6) その他：0名（※無回答：4名）

問 説明内容について理解することはできましたか。

できた：19名 ほぼできた：61名 あまりできなかった：8名 できなかった：2名
（※無回答：3名）

あまりできなかった，できなかった理由

- ・専門的なグラフ等が多く理解できなかった。
- ・専門的な事柄を講師が易しく説明しているのは分かるけど，内容はあまり理解できなかった。
- ・具体的な事例（地区経過など）による説明が欲しかった。
- ・話しの進行が早かったので，もう少し時間が欲しかった。
- ・専門用語は多く聞きにくかった。

問 意見交換の内容について，理解することができましたか。

できた：10名 ほぼできた：29名 あまりできなかった：9名 できなかった：1名
（※無回答：44名）

あまりできなかった，できなかった理由

- ・不明確な質問内容があった。

- ・質問に対する回答がやや不十分な面があった。
- ・一部の質問者は「自分の意見」を言いたげな感じで、不快感を得た。互いに不安を高めあうことが高コスト化と無用な風評を産むと感じた。
- ・国で決めた基準が、日本人にとって本当に望ましい数値なのか分からなかった。
- ・米の出荷に関する「不検出」の意味について、回答者が「放射線不検出」と「放射性セシウム不検出」を混同していたように感じた。

問 全体の構成（内容・時間配分）はいかがでしたか。

大変良かった：9名 良かった：51名 あまり良くなかった：19名 良くなかった：8名
（*無回答：6名）

問 食品の放射性物質に対する安全確保の取組がされていますが、流通している食品についてどう思いますか。

安全性はほぼ確保されていると思う：47名 ほぼ安全だと思うが、一部、疑問を持っている：32名
安全性に問題があると思う：4名 よく分からない：5名 （*無回答：5名）

問 食品中の放射性物質対策について、セミナーに参加する前と後で、あなたの考え方は変わりましたか。

参加前は不安だったが参加して安心した：20名 参加前は安心していたが、むしろ不安になった1名
参加前も参加してからも不安なことにならない：19名 参加前から安心していて不安はない：44名
（*無回答：9名）

問 セミナー全体について良かった点、改善すべき点について教えてください。

良かった点

- ・各分野において熱心に検査が行われていることに感心した。風評被害に対応するためには無用であると知りつつも安心安全の証明に力を尽くさなければならない。
- ・農林水産物は全て基準値以下のものしか流通していないことがよく分かった。
- ・全体の構成のバランスが良く、分かりやすい内容だった。
- ・基調講演で基本的事項の整理・確認を、行政側からの説明で現状の検査対応状況について再確認でき良かった。
- ・低線量の放射線であれば、普段の生活で改善できること。農協の検査方針等、これまで疑問や不安となっていたことが説明され、安心できるようになった。
- ・放射線単位での説明であったり、人体への影響としてどんなことが考えられるのか勉強になった。
- ・漁協の話は放射線に限らず、食品の安全安心を担保している努力には感心した。
- ・農協、漁協の話しを聞く機会はあまりないため、非常に貴重な経験だった。
- ・原発から出ている放射性物質の影響が小さくなっていることに少々安心した。
- ・放射線の専門の先生から話しを伺えて良かった。これからは「正しく怖がる」を意識したい。ベロベクレルを求めることは非現実的であり、100ベクレルでも低すぎる位十分な値であり、怖がり過ぎないようにしたい。
- ・基調講演で基礎知識を学んだ後に現場からの事例報告に移る構成は、具体的なイメージが出来て良

かった。

改善すべき点

- ・全国的な検査体制や流通上の問題点などの説明があるとよいのではないかと感じた。
- ・検査が進んでいても依然として出荷制限がされているものもあり，継続的に検査，公表して，基準値以下になるまで実行して欲しい。放射能が心配なくなるまでこうしたセミナーを続けて欲しい。
- ・消費者も参加しているなか，資料がやや専門的過ぎたように感じる。また質問者の意図と回答が噛み合っていない面があり，どれだけ正しい理解に繋がったか疑問が残った。
- ・基調講演の時間を少なくし，その他の資料の説明を十分行えるだけの時間を取った方がよかったのではないか。
- ・ゼロリスクを目指す姿勢と考え方は大切である。しかし，「ゼロ」という数字が一人歩きし，不安の払拭ができない状態が続いている。この程度の数値であれば「問題ない」といった基準を示す方が不安を払拭できるのではないか。
- ・安全論者と危険論者を対置する形でもよいのではないか。
- ・内容が盛りだくさん過ぎたので時間配分を検討しても良いのではないか。
- ・事故発生時から現在までの取組と課題など，現場の生の声を取り入れて欲しい。
- ・消費者側からの意見や発表も取り入れた形でセミナーを実施して欲しい。
- ・これまでの取組の経過を説明しただけで，問題点はなかったのか。あればどのように解決してきたのか，深く掘り下げて説明して欲しい。
- ・国の機関からの説明ではなく，生産者の生の声，現場の声でセミナーを開催した方が消費者の納得，安心が増すのではないか。

問 その他（セミナーの運営，今後の食品に関するセミナーで希望するテーマ等）について，ご意見を教えてください。

意見

- ・加工品の異物混入事故に関するコンプライアンスと行政の対応さらにはマスコミ報道の在り方について知りたい。
- ・食の安全について誤解されているような不安が多い。企業は消費者にどのように対応すべきか，またどのような情報発信をすればよいか知りたい。
- ・スーパーに測定器をおくなど流通食品の出口調査を行わないと安心感は得られないのではないか。

希望するテーマ

- ・ノロウイルスをはじめとする食中毒について
- ・水道水の安全対策について
- ・外食・加工食品の検査体制について
- ・農薬の安全性について
- ・食品添加物について
- ・食育について

以上